

事業名称	いすみ古材研究所
事業主体名	いすみラーニングセンター
連携先	いすみ市、創造系不動産
対象地域	千葉県いすみ市
事業概要	昨年度に引き続き、いすみ市役所や地域の関連事業者と構築したネットワークを活かし、地域の空き家の状態を把握した上で、古材・廃材・古道具の回収。それらの材を保管し、データベースを作成。加えて本年度は、オンラインでの展開を軸に、プロダクト開発などの材の活用や拠点の改修などの実践的なプロジェクト、職人の取材記事など、その根底にある思想をウェブサイトを通して人々に伝え、最終的に、いすみ地域でのツアーやワークショップの実施や空き家の問い合わせに繋がる仕組みを構築した。全体として、不特定多数をターゲットにするのではなく、文化的な視点を持つ層、クリエイティブな意識のある層に的確に届けるところから始め、徐々にその輪が広がるように設計している。
事業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家に眠っている古材や古道具、解体現場にある廃材などを回収 ・データベースの作成 ・古材・廃材を活用したプロダクトを開発 ・拠点となる物件の改修計画 ・いすみ古材研究所のHPを作成し、活動内容やものの価値をテーマにしたコンテンツを配信 ・物件紹介サイトを作成し、いすみの地域資源を活かした取り組みを構築
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・いすみ古材研究所のウェブサイトとその展開 ・物件紹介サイトとその仕組み構築 ・回収した材のデータベース ・古材、古道具の活用に関する研究と実践のプロセスについてのマニュアル
成果の公表方法	いすみ古材研究所のFBページにて公開 (https://www.facebook.com/isumimateriallaboratory)

1. 事業の背景と目的

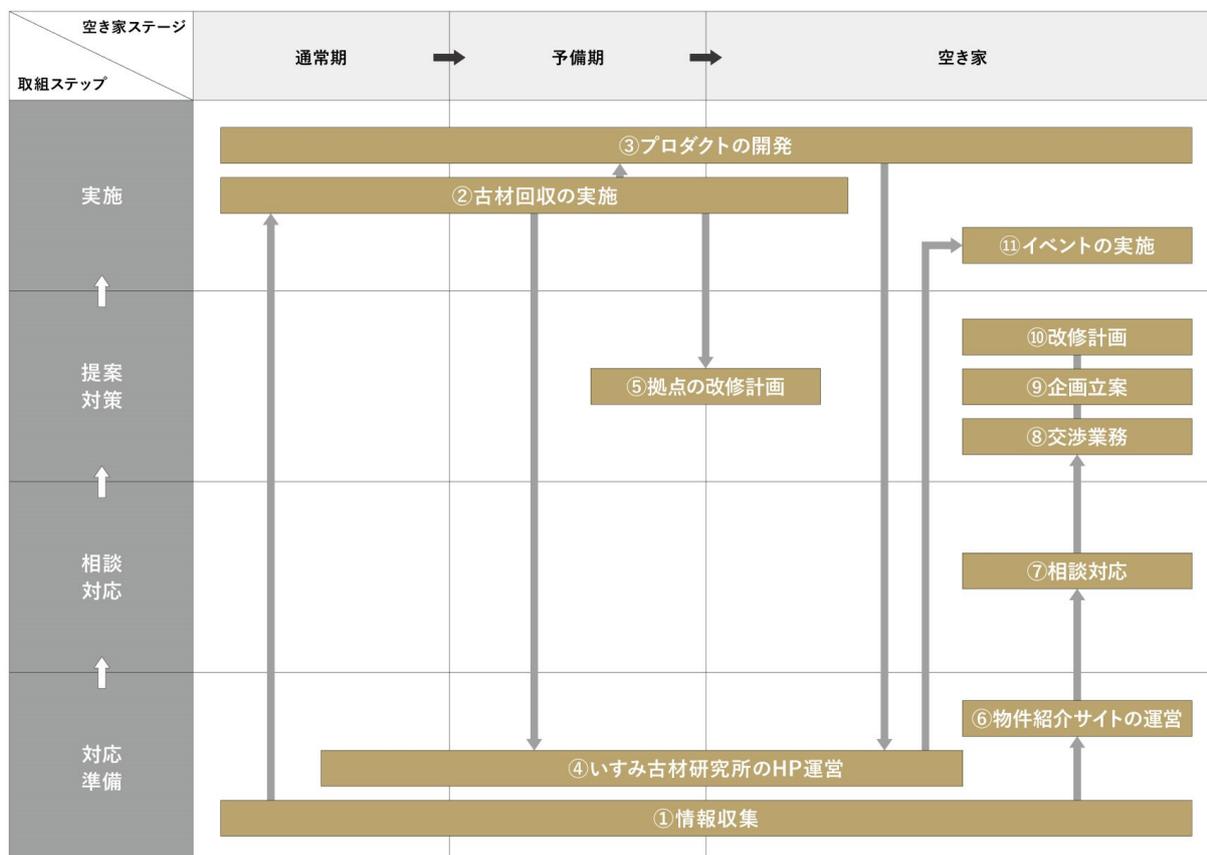
本事業は、活用の検討の末に解体が決まった建物及び放置された空き家で活用可能な古材や古道具などを地域のネットワークを駆使して回収しストック、さらに集めた材を地域の他の既存建物の改修に活用したり、プロダクトの開発をするなど、地域での資源循環を促進するものです。空き家そのものの持続的な活用には様々なハードルがあり、また時間も要する一方で、どんどん活用可能な建物が壊されたり、朽ちていったりする現実がある中で、まだ使えるもの(古材・廃材・古道具など)から活用を始めることで、結果として空き家そのものの価値に対して新たな視点を投げかけることができると考えています。さらには拠点やオンラインでの文化的かつ持続的な活動により関係人口を生み出すとともに、ラーニングセンターと密に連携しながらエリアリノベーションを推し進め、将来的には一つの文化圏の構築を狙いとします。全国的に問題となっている地域内のその他空き家の実践的な利活用を促進させる試みで(創造系不動産はいすみ市で既に空き家セミナーを開催している経緯もあり、空き家バンクとの連携も図っていきます)あり、産業廃棄物としてゴミとなるものを地域の活性化につなげる意義もあります。

2. 事業の内容

(1) 事業の概要と手順

昨年度構築した自治体や地域の関連事業者とのネットワークを活かし、空き家や古材の情報の収集を引き続き実施。地域の空き家の状態を把握した上で、古材・廃材・古道具を回収。回収した材を保管し、データベースを作成の上、専門家と検討しながら古材・廃材を活用したプロダクトを開発・試作します。同時に、拠点となる物件の改修計画も実施し、それらで得た知見と活動の思想を広く伝えるためにいすみ古材研究所のウェブサイトを作成し運用。定期的にオンライン上で情報を拡散し、人々の興味を獲得した上で、物件紹介サイトを公開し、特定のターゲットにいすみでの活動とそのポテンシャルを伝える仕組みを構築しています。以下にフロー図を掲載します。

[フロー図]



本事業の取り組みは、主に既存の空き家の持つポテンシャルを「モノ」の価値から再定義する試みであり、協力者や所有者に対してその意識の共有を促し提案から実働までを実践的に行うものです。既に空き家になっている物件からアプローチし、文化的啓蒙を進め、将来的には空き家ステージの予備期・通常期の段階でも人々が普段から「モノ」への意識を高め、生かしていく社会に繋がるような活動にしていきたいという思いがあります。

合同会社 YTRO DESIGN INSTITUTE(ブランディング、グラフィックデザインと建築設計 <https://ytrodesign.com/>)が中心となり、いすみラーニングセンター(創造系不動産が主宰する地域の暮らしとビジネスを探求する集まり)のメンバーや各ジャンルの専門家と協力して活動。加えて、情報収集

や各種調整において、昨年度に引き続きいすみ市水産商工課移住・創業支援室の方々にご協力をいただきました。役割分担の詳細とスケジュールについては、以下に表を記載します。

[役割分担図]

取組内容	具体的な内容(小項目)	担当者(組織名)	業務内容
① 情報収集	・回収の対象となる材の情報	・いすみ市 ・YTRO DESIGN INSTITUTE ・創造系不動産 ・鈴木康義	・市のネットワークを活かして、古材のある場所、ありそうな場所の情報を集める。
	・物件紹介の対象となる物件の情報		・市や創造系不動産のネットワークを活かして、紹介する意味のある物件の情報を集める。
② 古材回収の実施	・回収作業	・いすみ市 ・YTRO DESIGN INSTITUTE ・鈴木康義	・回収可能な古材や古道具を拠点や倉庫に運ぶ。 ・必要な場合は、プロの指導の元に解体。
	・データベースの作成	・YTRO DESIGN INSTITUTE ・いすみラーニングセンター	・回収した材の出どころ、ストーリー、サイズなどのデータを集計し、データベース化する。
③ プロダクトの開発	・プロダクトの開発	・YTRO DESIGN INSTITUTE ・濱名剛 ・中村修平 ・株式会社NAREU	・回収した古材に新たに具体的な価値を与え、態度の表象として活動の理解を深めてもらう。 ・オンライン展示の仮設什器として活用する。
④ いすみ古材研究所のHP運営	・いすみ古材研究所のHP制作と運営	・YTRO DESIGN INSTITUTE ・株式会社エントセン	・活動の情報や、ものの価値をテーマにしたコンテンツ(職人との対話、エッセイ)を掲載。
	・コンテンツの作成	・YTRO DESIGN INSTITUTE ・水内智英	・上記コンテンツの作成(取材、編集)。
	・PR	・板垣潮美	・活動やコンテンツの情報をSNSなどで拡散。
⑤ 拠点の改修計画	・設計	・YTRO DESIGN INSTITUTE ・玉井清 ・田中正洋	・経年した物件の魅力を活かした改修計画 ・SRFを使用した構造補強の実践計画
	・解体のノウハウ提供	・岩澤平仁	・物件の魅力を残しながらの解体検討
⑤ 物件紹介サイトの運営	・HP制作と運営	・YTRO DESIGN INSTITUTE ・株式会社エントセン	・活用の可能性のある物件、活用した物件、取り壊された物件の紹介。
⑥ 相談対応 ⑦ 交渉業務 ⑧ 企画立案 ⑨ 改修計画	・相談対応 ・交渉業務 ・企画立案 ・改修計画	・YTRO DESIGN INSTITUTE ・鈴木康義	・物件紹介サイトを中心とした問い合わせに対するフロー。 ・いすみ古材研究所のネットワークを駆使し、物件の改修までをサポートする体制を構築。
⑩ イベントの実施	・オンライン展示	・YTRO DESIGN INSTITUTE ・田中正洋	・いすみ古材研究所の活動を体現する展示を作成
	・オンライン展示撮影	・新井淳一郎	・展示風景を撮影し、オンラインで配信。
	・オンライントーク	・YTRO DESIGN INSTITUTE ・水内智英 ・佐藤奈穂美	・古材やものの価値をテーマにオンラインでのトーク企画を開催。
	・ワークショップ	・YTRO DESIGN INSTITUTE ・いすみラーニングセンター	・いすみの地域資源と空き家を関連付けたワークショップを開催。

[事業実施スケジュール表]

ステップ	取組内容	具体的な内容(小項目)	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月		
対応準備	情報収集	回収の対象となる材の情報		■							●	●	
		物件紹介の対象となる物件の情報		■							●	●	
	いすみ古材研究所のHP運営	いすみ古材研究所のHP制作と運営				■	■	■	■	■	■	■	
		コンテンツの作成			■	■	■	■	■	■	■	■	
		PR					■	■	■	■	■	■	
	物件紹介サイトの運営	HP制作と運営					■	■	■	■	■		
相談対応	相談対応			■							●	●	
提案対策	拠点の改修計画	設計	■									●	●
		解体のノウハウ提供	■									●	●
	交渉、企画、改修計画	問い合わせに対するフロー				■	■	■	■	■	■	■	
実施	古材回収の実施	回収作業	■									●	●
		データベースの作成	■									●	●
	プロダクトの開発	プロダクトの開発	■									●	●
	イベントの実施	オンライン展示制作									■	■	
		オンライン展示撮影から配信									■	■	
		オンライントーク							○	○	✪	✪	
										実施済	今後の予定		

(2) 事業の取組詳細

①情報収集

昨年度に引き続きリサーチを行いました。いすみ市水産商工課移住・創業支援室、創造系不動産、地域の製材所や工務店などと連携し様々な角度から現地を調査、その過程で目的を共有しながらネットワークを強化。昨年度からの活動の成果として、コンセプト資料や必要な材のリストを作成し、各方面にその都度丁寧な説明を行っていたため、自ら古材を保管し連絡をくれる方も現れ、コロナ禍においても、全体として情報収集は円滑に進みました。空き家バンクや地域の不動産事業者では扱えないが、地域の資源としては見所のある空き家の情報も集まってきており、今後物件紹介サイトからワークショップの実施の流れの中で対象となりそうな物件のリストも出来上がってきています。

②材の回収作業

昨年度に引き続き、解体前の物件や空き家から古材を回収。今季は、コロナ禍で実施可能な最小限の規模で展開しました。具体的には、いすみで展開する麻生工務店との協働により、現場で出る古

材を拠点に運んでもらう体制を構築。同時に、いすみ市水産商工怪獣創業支援室に入る情報を共有いただき情報を精査した上で、状態の良いもしくは魅力ある材のみをミニマムな人員で運搬しました。結果として、材の回収の回数自体は減り規模も縮小を迫られたが、昨年度に築いた関係性と関係者の意識向上により、回収業務の自走が進み、回収される材のバリエーションも増加。紹介の連鎖により広範囲のネットワークも構築されました。

建物所有者の方々からは、捨てることに費用がかかることから活かせる材があれば無償でと申し出ていただけることが多くあります。しかし、地域での持続的に活動をしていくためには気持ちのやり取りが可視化される仕組みづくりが必要となります。金銭の授受が発生すると、それはそれで関係性の構築や交渉が行いづらくなる中で考えたのが、「暮らしの記憶アーカイブ」という取り組みです。古民家や歴史ある建物が取り壊されてしまう前に、古材と植物を媒介にして建物の記憶を収め、所有者にフォトブックにしてお渡しするプロジェクトで、地域の方々には好評いただいております。

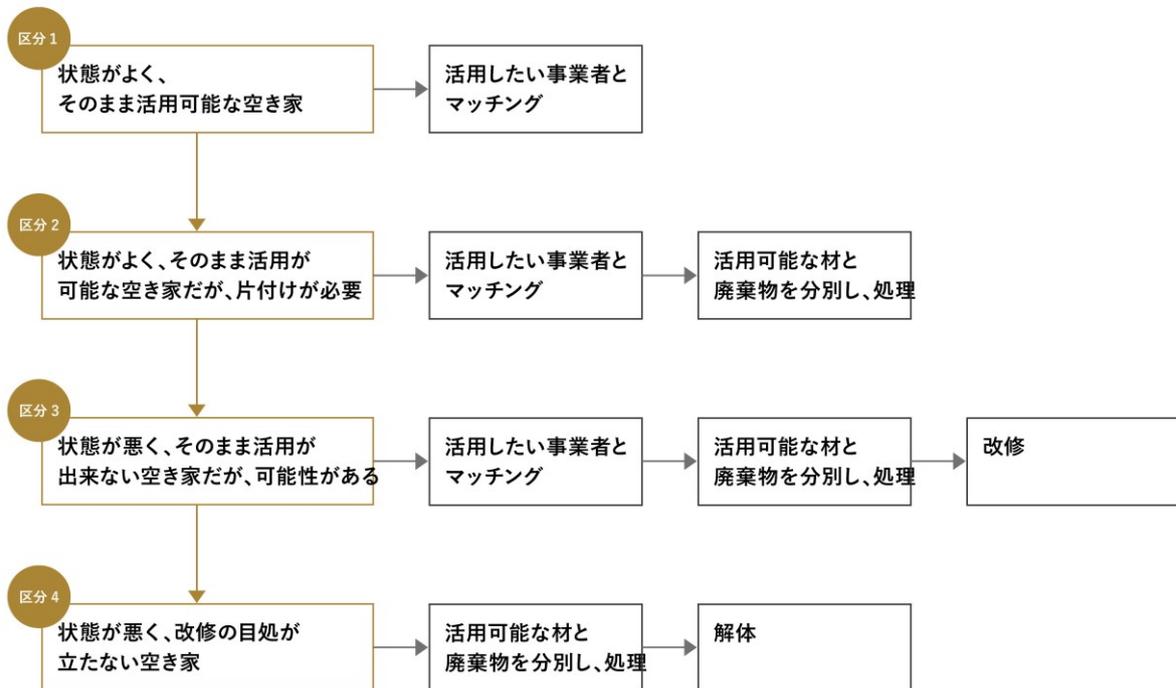
事例) 暮らしの記憶アーカイブプロジェクトで撮った写真



(図表 1. 取組②)

古材の回収を念頭にした空き家の区分も昨年に引き続き以下に記載します。

事例) 古材の回収を念頭に入れた空き家区分の例



(図表 2. 取組②)

③データベースの作成

集めた材の利活用を合理的かつ効果的に行うためのデータベースのプロトタイプを作成しました。材の詳細データ、回収から活用までの流れが見えるような仕様とし、かつメンバーがオンライン上で情報をシェアできる仕組みにしています。オリジナルの仕組みを作成するには、技術とコストがかかるので、タスク管理ツールとして条件付きで無料利用出来る notion を使用。ツール内で平易にカスタマイズが可能な仕様となっており、写真や画像を自由に添付でき、回収した物件や場所、材、プロジェクトが紐付けてデータ化することが可能となりました。メンバー各自の発想・アイデアを材に紐付けて他のメンバーと共有でき、プロジェクトに関する議論もスムーズに行うことができました。昨年度から活用している古材の分類方法も下記に記載します。

いすみ古材研究所で定めた古材の分類方法

分類	名称	定義	特徴
分類01	レスキュー材	・解体前の建物から取り出した材 ・空家に眠っている材	・状態は比較的良い。 ・生活の痕跡が残る。 ・使用者のストーリーがある。 ・経年の魅力。
分類02	廃材	・倒壊した、解体された後の材 ・一般的には廃棄されるもの	・劣化が激しい。 ・人為的には作れない表情、個性を持つ。 ・経年の魅力。
分類03	端材	・製材所で製品にならなかった材 ・製材時に発生する端材	・状態は比較的良い。 ・使用されずに放置されている。 ・製品にはならないが個性がある。 ・ある程度規格に沿っている。 ・一定量が定期的に出してくる。
分類04	天然材	・海や川、山にあるもの ・里山を管理する際に出るもの	・天然の造形物。 ・管理されていない。 ・所有されていない。 ・伐採される木など、管理の上で出る天然物。
分類05	古道具	・空家で眠っている家具、道具、置物 ・使わなくなったもの ・捨てられるもの	・そのまま、もしくは少し手を入れれば使用できる。 ・生活の痕跡が残る。 ・使用者のストーリーがある。 ・経年の魅力。

(図表 3. 取組③)

④プロダクトの開発

いすみ古材研究所の思想を伝え続けることで文化が醸成され、結果として地域の空き家活用に関わる関係者を増やすために、まずは回収した古材をプロダクトやブランドにする試みを実施しました。古材の特性を知り、実際にプロダクトを作るために必要な知識を得、また古材を活かしながら社会の仕組みを少し改善するサービスの開発に挑戦し、その知見やアウトプットをオンライン上で人々に共有していきます。取組チームとしては、内装工事から家具製作までに精通した有限会社Nareu (<http://www.nareu.com>)、家具の設計を生業とする807design (<http://www.instagram.com/807design>)、塗装やものを固めることに精通した中村塗装工業所とコラボレーションし、様々な切り口で開発の検討、試作製作を行いました。

・ロの字什器

古民家から回収した床材を使用し、単品でも組み合わせても使用可能で、人が座ることもできる多目的な什器を制作。807designとディテールの検討を実施し、販売可能なレベルまでクオリティを上げることに成功しています。

事例) 口の字什器

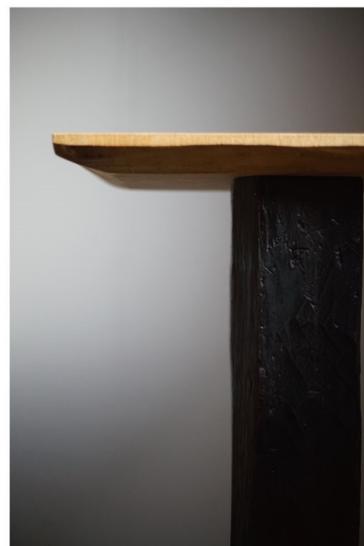


(図表 4. 取組④)

・柱状什器

骨董品や作家物を展示する際の使用を想定した柱状型什器を試作しました。こちらは長年燻されて黒くなった古民家の柱梁材を活用しています。

事例) 柱状什器



(図表 5. 取組④)

・塗装実験

中村塗装工業所の協力を得て、古材と塗装の可能性も探りました。施工サービスやプロダクト制作への応用をふまえています。

事例) 古材×塗装



(図表 6. 取組④)

試作・検討の結果、古材を使用する際に一つ一つ状態が異なることへの対応から通常のプロダクト開発よりもコストがかかるため、実際に商品化またはサービス化を実施する段階では、付加価値をしっかりと伝え、的確に需要のあるところに届ける必要があることが明らかになりました。

⑤拠点の改修計画

経年の魅力を活かした改修方法についてのノウハウを獲得するために構造面でのアプローチ、意匠面でのアプローチ、そしてソフト面でのアプローチからそれぞれを追求していきました。3つのアプローチのバランスを考慮し、全体を俯瞰しながら段階的に進める計画としました。

・構造面でのアプローチ

拠点となる物件である通称”旧剣道場”は、シロアリと雨漏りにより土台や柱に大きな被害が出ていました。合わせて、長年の間に様々な業者がその都度補修を行っており、全体として建物の状態を把握するだけでもコストと手間がかかる状態でした。古民家や歴史ある物件に良くある状況ですが、普通に構造改修を行うと、”旧剣道場”の規模であれば、数千万円はかかってしまい、かつ現在の経年の魅力を損なう見栄えになってしまうことが想定されます。以上のことから、タマイアトリエ級建築事務所と検討を進め、構造品質保証研究所が開発したSRF工法を採用。安価かつ意匠性を損なわない構造改修計画を立案。加えて、古民家に詳しいパートナーの岩澤平仁氏と拠点がある国吉を本拠地とする麻生工務店に協力いただき、伝統工法的視点も持ちながら全体の改修計画を進めることとしました。

事例) 現場の写真



被害のある部分を確認



SRF工法

(図表 7. 取り組み⑤)

・意匠面でのアプローチ

建物が持つ経年の魅力を活かすこと、解体の過程で出てきた表情を活かすこと、そして、解体時に出た廃材や回収した古材をうまく活用する方法を模索しました。YTRO DESIGN INSTITUTE とパートナーの田中正洋氏を中心として、解体・構造補強・DIY 施工の段階的ステップを考慮した設計プランを立案。DIY 施工の段階では、地域の人々も含めたワークショップを実施し、共に創り上げることで地域での建物への思い入れが醸成される流れを作ります。

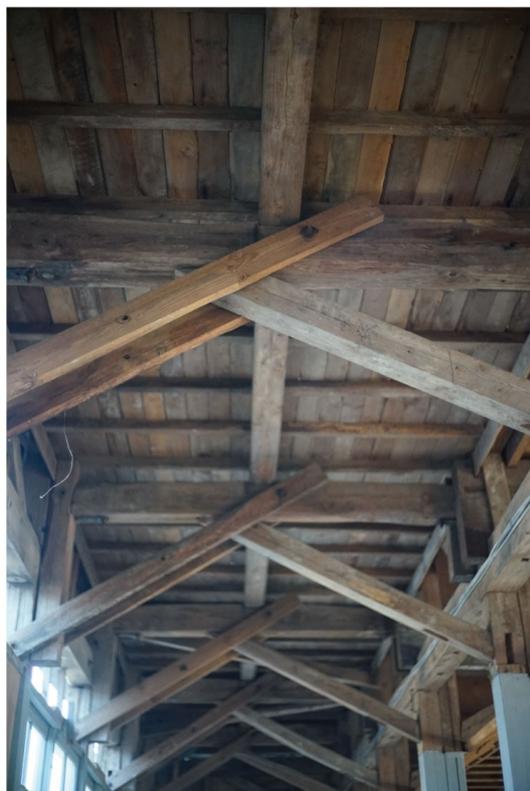
・ソフト面でのアプローチ

当初は改修を実施しながらワークショップを行い、参加者と共に活用方法を考え、活用していく計画を立てていたが、新型コロナウイルスの流行により実施が困難に。全体の改修計画はメンバーのみで実施し、ウェブサイトと SNS にて情報共有を進めました。”意匠面でのアプローチ”にも記した通り、部分部分の施工方法を参加者と共に学びながら考えるワークショップを計画。その実施の際に、建物の活用方法も合わせて考えていく建付のもとに。関係者皆で地域を活性化していくためのハブとなる建物を作っていきます。

事例) 現場の写真



DIY解体の実施



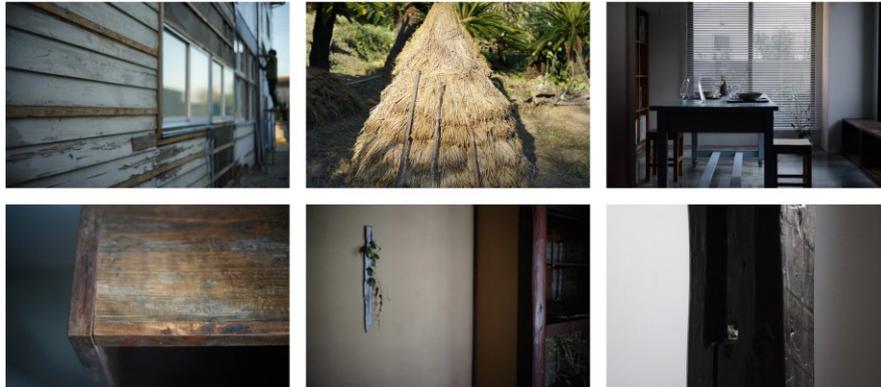
伝統工法の魅力

(図表 8. 取組⑤)

⑥オンラインでの展開(情報サイトの作成)

全体の計画の中で、“ものの価値の再定義” 遠いコンセプトやその目的に基づいた考え方の共有・浸透が、今後の活動を進めるため、そして問題の改善のために必要な要素となるので、いすみ古材研究所のウェブサイトを作成しました(<http://isumimateriallab.com>)。各メニューで高買う的にプロジェクトの解説をし、読み物などのコンテンツも用意して思想の伝播を図りました。現在のオンラインでのコミュニケーションに欠かせない SNS のページも用意。それぞれの性質に合わせて流す情報の内容を調整の上、ウェブサイトまでの導線の設計を実施しました。コンセプトを視覚的に伝えるために映像の政策も計画。より高くてきに伝達していきます。

事業計画で掲げたウェブサイトへのアクセス数を無事に達成し、実際にオンラインで情報共有した内容に共感した方々から、空き家の問い合わせをいただいたり、枠組みの中で協働プロジェクトが立ち上がったりと、空き家活用・古材の文脈で活動の輪が広がっています。(ウェブサイトのページビュー(12/29～2/5):3,888件、FB ページ投稿ビュー(12/29～2/5):2,937件、空き家の問い合わせ:7件、株式会社エンジョイワークス主催の空き家再生プロデューサー育成プログラムの招致も実現。



いすみ古材研究所とは

既に在るもの、不要とされるものに「美」を見出し、
過去から未来への文脈の中で
持続的な循環の在り方を思索しながら、
ものづくり、場づくりを行うデザインファームです。

[Learn More](#) →

NEWS

- | | |
|------------|---------------------|
| 2020.12.28 | ウェブサイトを公開しました。 |
| 2020.10.20 | 旧剣道場の構造改修工事を開始しました。 |

CONTACT

FACEBOOK | INSTAGRAM | TWITTER

Copyright 2021 © YTRO DESIGN INSTITUTE

(図表 9. 取組⑥)

⑦オンラインでの展開(物件紹介サイトの作成)

いすみ古材研究所の活動を進める中で見えてきた課題を、より大きな枠組みを作ることで問題の改善につなげるため、物件紹介サイトを作成しました(<http://commons-isumi.com>)。1つ目の課題は、市

への問い合わせの中に既存のシステムから漏れている空き家が多数あり、魅力があるのに荒れ放題だったり、解体されてしまう物件が出ていること。もう1点は、こだわりの活動それぞれのポテンシャルに対して、活動の規模の問題もあり面的な動きにならないことがあります。それらの悪循環を好転させるために、建物そのものから検討を始めるのではなく、すでにある活動や風景などを広く地域の資源と捉え、それらを起点に地域内外のコミュニティや個人をつなぐワークショップを開催し、空き家や空き地などを含めた場で展開していきます。結果として、地域のコモنزが顕在化していくことを目指します。

いすみ古材研究所のウェブサイトから本サイトへの導線を作ることで、いすみ古材研究所の思想(ものの価値の再定義、既にあるものを活用する)に共感した人々が考え方の前提をクリアした上で本サイトにアクセスする状態を作ります。

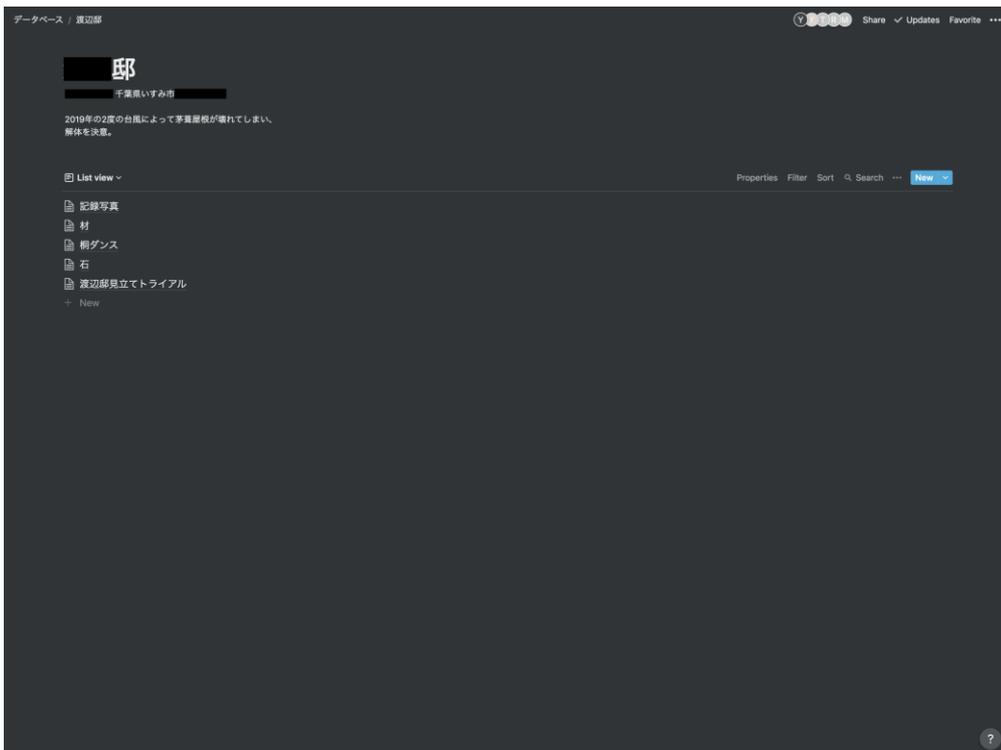
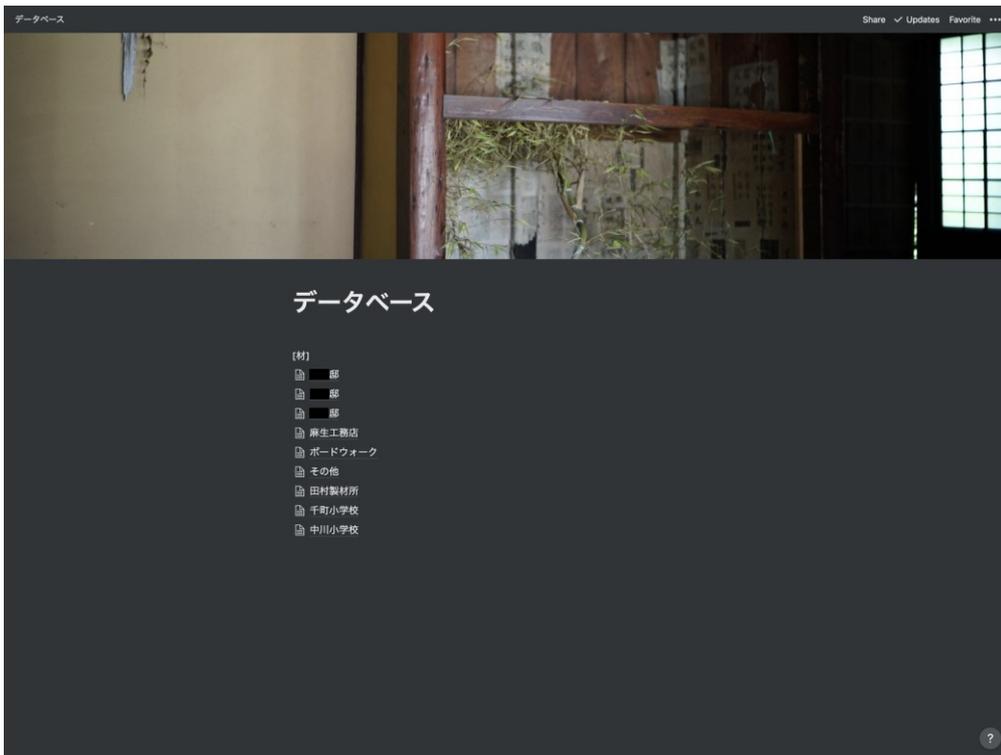


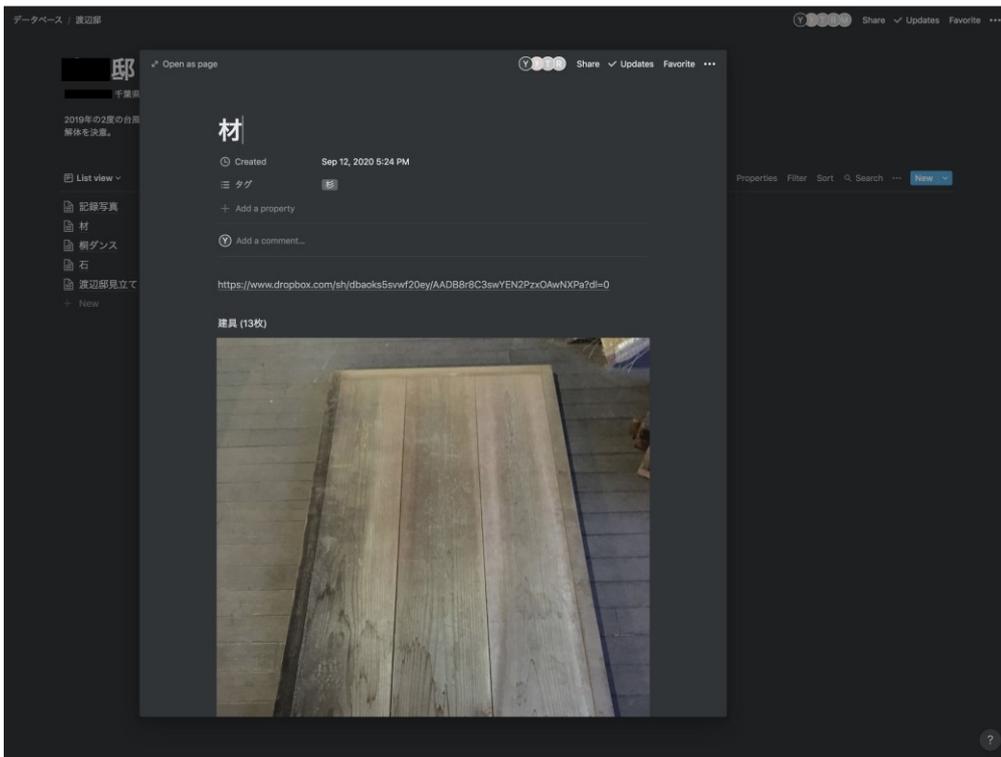
(図表 10. 取組⑦)

(3) 成果

①回収した古材のデータベース

事業期間中に回収した古材のデータベースを作成しました。前年度はソフトで作成したプロトタイプとエクセルのデータを使用しましたが、メンバー間の共有や実践での利便性があまり良くなかったため、今期は既存で条件付き無料で使用可能なタスク管理ソフトを採用。結果、プロジェクトのアイデア創発・共有まで非常に効率よく進めることが出来ました。(添付画像は、アプリケーションの画面。)





(図表 11. 取組①)

②マニュアル「古材廃材の利活用についての研究と実践」

事業期間中の研究と実践についてのマニュアルを作成しました。各地で空き家問題の改善に従事される方々への共有を念頭に、「古材」という価値観から実践にシフトするまでの経緯と経験値をわかりやすいフローにまとめています。

目次としては、

1. 活動の動機
2. コンセプトメイキング
3. 体制
4. 取組内容
5. 材の回収作業
6. 空き家の区分
7. 材の区分
8. データベースの作成
9. 材活用の可能性と事例
10. 暮らしの記憶アーカイブ
11. プロダクトの開発
12. 拠点の改修計画
13. オンラインでの展開(情報サイトの作成)
14. オンラインでの展開(物件紹介サイトの作成)

の流れになっています。

いすみ古材研究所の Facebook ページにて公開しています。

([ssdhttps://www.facebook.com/isumimateriallaboratory](https://www.facebook.com/isumimateriallaboratory))

3. 評価と課題

①体制づくりと情報収集

昨年度に引き続き、いすみ市水産商工課移住創業支援室の皆さんと創造系不動産の協力により、情報の収集とネットワークの構築はスムーズに進み、コロナ禍において可能な範囲で地域の事業者や空き家所有者との連絡も概ね円滑かつ円満に進めることが出来ました。まだ近隣の住民には活動内容が伝わりきっていないので、地域住民も巻き込んだ活動にしていく必要があります。

②材の回収とデータベースの作成

昨年度に構築したネットワークが活かされ、コロナ禍においても、多くの材が集まりました。加えてデータベースも notion を活用したことで効率化され、全体の仕組みも強化されました。一方で、現地での作業量は減らさざるを得ず、材の整理が進んでいない状況があります。

③プロダクトの開発

古材の特性を知る為、そして活動の思想を伝播する為の実践として、多角的な追求が出来ました。その結果、一般のプロセスよりコストがかかる為、実際にプロダクトでの収益を得る為には付加価値をつけて的確にターゲットに届ける必要があることがわかりました。

④拠点の改修計画

構造の面、意匠面、ソフト面での多角的な検討を実施することが出来ました。特に構造面での検討によって、SRF 工法と言う比較的安価な方法を実践。この方法は、予算の少ないプロジェクトにおいて、また古い建物の経年の魅力を損なわない活用の実践の際の選択肢となると考えています。意匠面、ソフト面はコロナ禍において、実践の部分で変更と遅れが出ましたが、その分仕組みづくりに時間を割くことが出来ました。

⑤いすみ古材研究所のウェブサイトの構築

思想と活動内容をオンラインでより広くの人々に伝えるためにウェブサイトの作成を実施し、SNS も駆使することで、目標のアクセス数を達成しました。加えて、思想に共感していただいた方々から空き家の問い合わせやプロジェクトの相談が来ています。コロナ禍において、取材などコンテンツ制作の上で停滞気味な部分もありますが、全体として、第1段階は大いに成功を得ることができたと考えております。

⑥物件紹介サイトの作成

空き家の情報や地域での活動主体との関係性構築は一定の成果を得ているものの、コロナ禍において現地での調整が遅々として進まないかったことで、全体の建付に遅れが出ています。が、時間に猶予があった分、ステークホルダーと度重なるオンライン会議を実施し、当初は考え付かなかったツアーやワークショップの実施によって地域内外の人々を繋ぐ仕組みの構築を行えたことは大きな成果と考えております。

4. 今後の展開

・引き続き材の回収を進めストックを増やすとともに、拠点の整備を行い、材の可能性を様々なベクトルで活かしていく体制を構築していきます。将来的には、その場で作業や交流が可能な工房にしていくことを目標としています。

・試作を行ったプロダクトの開発過程で得た知見を活かし、サービスやブランドを作っていきます。思想の伝播、そして古材の価値を上げていくことで、既に在るものを活用する楽しさを文化として浸透させ、結果として空き家の活用を考える人口を増やすことに繋げていきます。

・いすみ古材研究所のメンバーの特性を活かし、そのコンセプトを念頭に置いたデザイン・設計業務を行っていきます。空き家そのものの改修や店舗改修での材の活用、家具のデザイン、古材を活かした場のデザインなど様々なアウトプットのデザインに繋げていくことで、目に見える形で空き家のポテンシャルを認知させる活動になると考えています。

・物件紹介サイトを活用しながら、ワークショップやツアーの事業を作ります。いすみラーニングセンターやいすみのプレーヤーのネットワークの中で、実施数を増やし、いすみの文化の中で様々なコミュニティ間の交流を促進させます。

■事業主体概要・担当者名			
設立時期	2019年7月		
代表者名	合同会社 YTRO DESIGN INSTITUTE 高橋慶成		
連絡先担当者名	合同会社 YTRO DESIGN INSTITUTE 高橋慶成		
連絡先	住所	〒108-0072	東京都港区白金 1-11-1-206
	電話	03-5860-2600	
ホームページ	http://ytrodesign.com		